

第541回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和5年7月12日（水）午前11：00より
2. 開催場所 長野放送本社会議室
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
 - 委員長 林 新一郎
 - 副委員長 井口 弥寿彦
 - 委員 浅井 隆彦
 - 委員 加藤 恵美子
 - 委員 笹本 正治
 - 委員 武重 正史
 - 委員 中山 潔
 - 委員 南澤 光弥○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
○放送事業者側出席者名
 - 外山 衆司 （代表取締役社長）
 - 船木 正也 （常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当）
 - 久保 善一 （取締役 報道制作・企画事業担当）
 - 西條 彰浩 （報道制作局長）
 - 早川 英治 （編成業務局長）
 - 浅輪 清 （編成業務局次長 兼 考査部長
兼 放送番組審議会事務局長）
 - 北澤 輝久 （編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）
 - 伊藤 晴彦 （報道制作局次長）
 - 宮澤 弘樹 （報道制作局制作部副部長）

4. 議題

（1）番組審議

『 土曜はこれダネッ！ 』

(2) 視聴者対応報告（令和5年6月分）

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・最も長く続く番組で一視聴者としてNBSの番組と言えれば何かということ真っ先にこの番組が頭に浮かぶ。
- ・バラエティに満ちた大変楽しい番組。特に地域密着というのが、いかにも長野放送らしくてうれしい番組だった。
- ・非常に良心的で真面目で温かみがある、穏やかな構成で安心感を持って視聴できるというような印象を強く持った。
- ・番組の狙いは非常に明確で、家族で週末をどう迎えようかということにフィットしていて、今回の番組もグルメ特集とあじさい寺。こういったものも魅力的で、一度食べに行ってみようかなと思うような番組だった。
- ・1日が終わろうとしている時に次の日の楽しみを感じさせる、何をしようかというヒントになるいろいろな情報が入っていると感じた。
- ・番組の雰囲気が出演者全員で明るく元気な番組作りをしようという意思が統一されているように感じた。
- ・気楽に見て楽しめるいい番組。あじさいの花について、花の名前の由来だとか、仲間に話したくなるような知識も入っていてとても良かった。

- ・土曜夕方の時間帯を念頭に、明日訪ねて行けたり休日を生かして手軽に楽しめたりできる情報を軸にした番組作りに徹しているから長野県民に受けている。
- ・週末の雰囲気合う「明るく楽しく元気よく」というモットーに沿って、出演者それぞれが格好つけたりしないで、自然体で生放送に臨んでいることが、多くの県民に受け入れられている心地よい視聴感に繋がっている。
- ・じっくり1時間、座って腕組んで見ている人はいない。その間、出たり入ったりしてどこから見ても楽しめる。この構成は素晴らしいものがあると思った。
- ・あじさいの花について、花の名前の由来だとか仲間に話したくなるような知識も入っていてとても良かった。
- ・一つの方向性だけではなくて、いろんな人たちが出てくる。天気予報一つ取ってみても、「モーリーの信州スケッチ」みたいな柔らかいものを入れてみたりする点も面白かった。
- ・毛織アナウンサーの絵がすごく良くて、あれは本人が描いたのだったらもう少しいろんな特集に生かしてもいいのではないかと感じた。
- ・次週の紹介もうまく編集されている。視聴者プレゼントもたくさんあって、よく集まると思いをながら見た。いい週末を迎えるいい番組じゃないかなと思った。
- ・小林知美さんの話術というか、滑舌もいいし、ボディアクションも嫌味なく伝わってくる。生中継であれだけのレポートができるタレントさんは余りいないのではないかと思う。
- ・小林知美さんは存在感があってユーモアにあふれている。とはいえ嫌味が無く、なかなか才能のある方だと感じた。
- ・小林知美さんは、はつらつとしたパワーと感情豊かな表現力が全く衰え知らず

で、番組のモットーである「元気良く」の象徴的存在と感じた。

- ・小林知美さんは非常にオーバーアクションで手や足や体全体を使って、決して嫌味に見えない。心から楽しそうに話をして、楽しく感じながらやってくれているという感じ。元気をもらえる素晴らしい方、適材の方を使っていると思った。
- ・柔道家の篠原信一さんは日本中の人を知っていて、柔道関係者は世界中の人が知っている。NBSの番組のポテンシャルの高さを位置付ける方が篠原さんではないかと思った。
- ・篠原信一さんは、コメディアン的な感覚と間の取り方に磨きがかかってきて、バラエティの対応に非常に余裕が出てきたように見受けられる。素人である県民への接し方が秀逸で自然に笑顔を引き出せ、技と言っているのではないかと思う。
- ・八ヶ岳を望む小海町の雄大な農場と篠原信一さんの体格、キャラクター。これがあの場所にマッチして見えて面白かった。ドローンの撮影も良かった。こういう企画は今後もどんどんやっていただきたい。
- ・食材を生かすという面では調理まで情報として出すというのはいいと思うし、最後に買う時のアドバイスも気が利いている。ある意味、食品ロスを減らすとか、SDGsにも繋がると思った。
- ・アナウンサーの皆さんは役割としてプロらしくそつなく番組を進行している感じはするが、そこでうまく切り込むとか、レポーターやタレントにうまく突っ込むというような役割の人がいると、面白く見られるかなと感じた。
- ・はっちゃんがVTR後にうまくコメントでフォローされていたので、はっちゃんのフォローコメントというのは非常に重要で、全体を助けていたと感じた。
- ・はっちゃんが非常に好感を持てる方で才能がある方だと思うが、スタジオのMCで振り回すということや、或いはセンスのある突っ込みを入れるという所は荷が重いというか、適材適所かどうかということにはちょっと気になった。見た印象と

してご自身がボケ役とかいじられ役の方が向いているのではないかと感じた。

- ・はっちゃんが小林知美さんに対して「なまってるよ」という言葉を入れているが、なまりをマイナス評価するような発言というのは余り良くないと思った。
- ・アナウンサーによる食レポも辛さとか美味しさみたいなことがよく伝わってくるプロフェッショナルだと思った。
- ・グルメ情報の特集は、南北に広い県内の地域性にも配慮しながら特徴ある個性的な品を提供しているお店をよく選んだと思った。
- ・今回はグルメも他の情報もあるし、県内くまなく伝えるということで制作側の意図は感じ取れる。今後もぜひ、グルメに頼りすぎない番組作りをお願いしたい。
- ・特徴的な店はたくさんあるので、どのように絞り込んでいるかについても中に入れてもらおうと分かりやすいと思った。
- ・お店を選んだ根拠があると情報として公平感と信頼感があるのではないかと感じた。
- ・リポーターの方が実食する時の表情とか汗とか顔色とかを大事にした方がいいのではないかと感じた。
- ・あじさい寺の抱える問題で、虫の被害の話はニュース性があるというか、情報として面白いと思うのでもう少しクローズアップしておくとか駆除の方法とかの支援を誘引するようなものになったのかもしれないと思った。
- ・終盤に視聴者からのメッセージということも含めて、テレビが一方通行じゃなくて視聴者からの意見とか地域の話とかを取り込んで、視聴者も参加をするような工夫がされていることも良かった。
- ・良くも悪くも穏やかなので余り刺激が無いというか、選んでこの番組を見たいという方がどのくらいいるかなというようなところで少しインパクトが弱いのでは

ないか。

- ・もう少しバラエティ色を強めるというか、もう少し刺激を盛り込むということも工夫として必要ではないかと感じた。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和5年6月分の視聴者対応について編成部より報告を行った。

(3) その他

配布資料

- ・第540回番組審議会（令和5年6月）議事録
- ・視聴者対応報告資料（令和5年6月分）
- ・モニターレポート
- ・BPO報告（NO.253）
- ・民間放送（第2216号）
- ・タイムテーブル

以 上